

領域・小問ごとの分析	対策の視点
<p>領域 C (地球と宇宙)</p> <p>10. 川上と川下の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ (1)73%、(2)73%とほぼ理解されている。誤答は川上と川下とを混同したものがみられる。</li> </ul> <p>11. 川の曲がっているところの様子</p> <p>(1) 川の曲がっているところの流れの様子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 正答率は58%で「内側がはやい」という誤答が多い。</li> </ul> <p>(2) 川の曲がっているところの川底の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 正答率40%で理解が十分とは言えない。誤答は、「内側のほうが深い」としたことが多い。</li> </ul> <p>12. 月は同じ時刻では、日がたつにつれて、見える位置が変わること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 正答率は19%ときわめて低い。「西より」に見えるとしてエを選んだ誤答が多く、日周運動との混同が原因とみられる。</li> </ul> <p>13 月や太陽の動きや形</p> <p>(1) 月も太陽も東の方から出て、南の空を通り、西の方へ入ること。</p> <p>(2) 太陽も月も丸い形をしているが、月は日によって形が変わって見えること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ (1)・(2)ともそれぞれ74%、81%の正答率を示し、ほぼ理解されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 10・11を通じ、実際に川原での観察学習をすることが大切であることを感じる。 川原での観察・流水実験などにより、現象を観察させ、観察のまとめを的確に指導する必要がある。</li> <li>◦ 月の観察に際しては、1日の中で時間をおいて見る観察と、日数をおいて同じ時刻に見る観察とがある。ここでは、何日か続けて観察させ、月が見える位置と月の形とを関係づけて理解させる必要がある。</li> <li>◦ 実際に観察させれば理解できる内容である。ただ、断続して観察させることが必要なため、観察のさせ方については工夫が必要である。</li> </ul>
<p>領域 B (物質とエネルギー)</p> <p>14. 水に溶けた食塩は、どの部分も同じ濃さであること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 正答率が22%と低く、誤答としてアの「残った食塩の近くがこく…」と、エの「底のほうがこく…」が多い。これは「溶けきれないで残った食塩」ということに</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 「物が水に溶けると、物は水の中に一様に拡がり、均質になること」は溶解の基本的な概念として大切なもので、水溶液の上部と下部でも濃度は変わらないことを、実験や観察をとおしてよく理解させる。</li> <li>◦ 実験上の条件と結果を合わせて考察するよ</li> </ul>